

歯ブラシを持った 9人の天女が活躍する 健康情報の発信基地

辻野歯科医院

●辻野歯科医院●

所在地：大阪府高石市東羽衣5-14-16

スペース：152㎡（46坪）

ユニット：7台（うち予防用が3台）

スタッフ：歯科医師4名、矯正専門医（非常勤）3名、歯科衛生士9名、スマイルクリエイター（歯科助手）2名

1日の患者数：約65名（うちメンテナンスは15名）

診療時間：9：30～12：30、14：00～19：00（土は17：00まで）

休診日：日・木・祝日

大阪湾に面し、羽衣伝説が残る南海本線羽衣駅。下町情緒溢れる大阪の住宅街に、「辻野歯科医院」があります。丸みを生かしたレンガ色の建物は、近隣の目印となっているとか。院長の辻野元博先生にうかがいました。

**「天女」がシンボル。
「人にやさしい」をコンセプトに**

▶▶▶駅前には歯科医院が多いですね。

「この辺りは下町の住宅街です。生まれ育った土地に診療所を建てましたが、駅からわかりにくいので、駅に看板を出しています。開業したばかりのころは、患者さんが少なかったこともあり、時間をかけたていねいな治療ができたので、患者さんの信頼を得られたのだと思います。私の小・中学校の同級生やその子どもたちも来院されます。最近はお子さんのむし歯が少なくなって、矯正治

療のニーズが高くなっていますね」

▶▶▶医院設計のコンセプトはどのようにお考えでしたか？

「人にやさしいというコンセプトで、知り合いの一級建築士に設計を依頼しました。待合室の半円形のガラスブロック窓が特徴です。勤務医時代の診療所がコンクリートの床で、1日診療した後はたいへん足首が疲れましたから、働く人の足にもやさしい体育館と同じ木組みの床材にしました。駐車場は6台分。車を使う方が多いので、雨の日はいっぱいになります」

▶▶▶天女のロゴマークは、オリジナルのデザインですか。

「海沿いに松林があって、羽衣伝説があります。羽衣という地名にちなんで、天女ちゃんにしました。歯科衛生士が主体の診療態勢ですので、『これは君たちだよ』と話しています。医院のシンボルとしては、そのままではおもしろくないので、歯ブラシを持たせました。名刺にも使っています」

▶▶▶診療方針は？

「できるだけ歯を抜いたり削ったりしないように心がけています。もともとユニット4台でしたが、予防、メンテナンスをしっかりとしていきたい



Motohiro TSUJINO

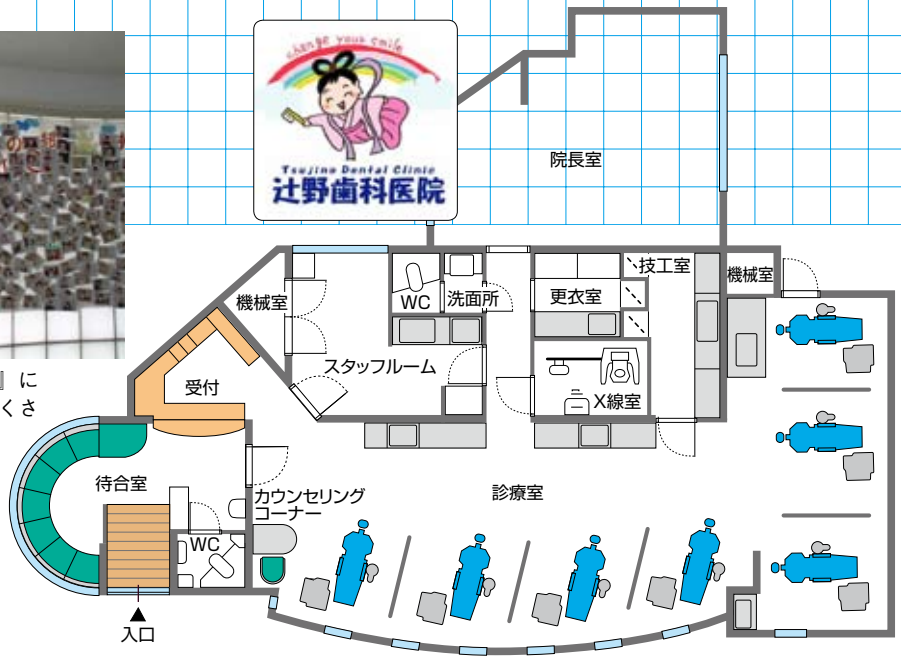
辻野元博

院長の辻野元博先生は、1961年、大阪府高石市生まれ。1990年、大阪大学大学院歯学研究科卒。大阪大学歯学部附属病院と開業医の下で勤務ののち、1991年、現在地で開業。大阪大学歯学部附属病院歯科医師臨床研修の指導医も務める



▲待合室の窓には、『たけのご組』に入会した子どもたちの写真がたくさん掲示されている

▶辻野歯科医院の見取り図。
1991年、ユニット4台で開業。
2003年に医院を改築し、3台増設した



と2003年に3台分を増築して、2台をメンテナンス専用に使っています」

歯科衛生士は総勢9名。募集の苦労はなく

▶▶▶歯科衛生士が総勢9名とたくさんですね。

「歯科衛生士の尾方千鶴主任と安部明美リーダーの2人がうまくまとめてくれています。先輩の歯科衛生士がいる診療所で働きたいと転職してくる人もいます。歯科医師に指導されるよりも、歯科衛生士同士で教えあうほうが気も楽ですし、遠慮のない話もできます。そういうことで集まってくるのかと思います。歯科衛生士たちの人柄がよく、仲もいいので、非常勤の先生方も『ここは治療しやすい』と言ってくださいます」

▶▶▶相談できる先輩がいると心強いでしょうね。

「人は磁石と同じで、たくさんいるところに集まってくるようです。ですからここ数年、歯科衛生士の募集には苦労していません。また最近、歯科助手をスマイルクリエイターと呼ぶことにしました。「助手」という言葉は、主役になり得ない呼び方だと思っています。患者さんの立場になって、患者さんのスマイルを創造していく仕事だという役目を認識してほしいと思っています」

▶▶▶スタッフ中心の取り組みはありますか。

「うちでは『患者さんサービス自慢運動』をしています。院長が知らないところで患者さんにサービスをしていることを、ミーティングのときにアピールしてもらうのです。『赤ちゃんを連れて



★安部明美さん★

(DH歴8年)

辻野歯科医院に勤務して5年目です。予防をメインに歯科衛生士が活躍できることが魅力的です。辻野院長はすごく勉強されていますし、何でも教えてください。歯科衛生士同士で刺激あって、向上していける雰囲気があります。

2003年にユニットが3台増えてから、3ヵ月のリコールで、PMTCをメインにしたメンテナンスを行うようになりました。初診のとき、先生が作ったテキストを患者さんにお渡しして、定期的なクリーニングが必要なことをご説明し、治療が終わったときに予防のご案内をしますが、患者さんにはスムーズにメンテナンスに移行していただいています。

よい職場に出会えてやりがいを感じ、勉強会にも行きたいと思うようになりました。昨年見学させていただいた聖母歯科医院（神奈川県川崎市）の取り組みに刺激を受け、もっと自分を向上させていきたいと思っています。

よい患者さんに恵まれてコミュニケーションが楽しく、患者さんが大好きなのが、長く勤められている秘訣ではないかと思っています。患者さんと何でも話し合える存在になって、長いスパンで一人ひとりの患者さんの予防にかかわっていきたいです。



▲メンテナンスを行う歯科衛生士の尾方さん。患者さんには、“心地よいPTC”を提供できるように心がけている

きたお母さんの治療中に赤ちゃんの世話をしてみました』とか、『足の不自由な方が来られたので、玄関でスリッパを出しました』などとスピーチしてもらい、月間大賞を決めて名札に☆のシールを付けて、たくさん☆を集めた人には私から賞品をプレゼントしています。みんなのモチベーションが下がらないように、1人に集中しないよう気をつけています」



★尾方千鶴さん★

(DH歴15年)

歯科衛生士になって20年ですが、子育てで5年間のブランクがあり、ここに勤務して6年です。辻野院長は、歯科衛生士の役割を認めてくださって、私たちの個性を大事にして、力を発揮できるような場を与えてくださいます。一人ひとりを信じてくださるので、がんばろうという気持ちになりますね。

私は、スタッフ全員が主役だと思っています。それぞれのレベルにあった目標をもたせて勉強会などをしていて、若いメンバーも前向きにがんばっています。チームを意識しながら患者さんと接して、困っていることを一緒に悩んで喜びに変えていけることや、『一生、私の歯を診てね』という患者さんがいらっしやることに、すごくやりがいを感じています。患者さんが笑顔で帰って、また笑顔で来院してくださると、もっとがんばらなければと感じます。

課題はまだたくさんありますが、勉強熱心な辻野院長の姿勢を見習いながら、チーム全員がよりレベルアップして予防をもっと充実させ、患者さんにより喜んでいただけるようにしていきたいと思っています。

私自身は日本歯周病学会認定歯科衛生士の資格や心理学の認定カウンセラーに挑戦中です。自分たちが疲れて乾いた心だと患者さんの口腔内、身体、心の変化が見えなくなりますので、心をみずみずしくし、心を鍛えながら、「心こそ大切なれ」と日々勉強、仕事に挑戦していきたいと思っています。



▲カウンセリングコーナーも充実。ユニットを離れて、安心して話ができる

▲左より、液晶モニター、口腔内 CCD カメラ、位相差顕微鏡。予防用ユニットには患者説明に欠かせないツールが並ぶ

予防主体で、歯科衛生士が元気に

▶▶▶ 予防にシフトしていったのは何かきっかけがあったのですか。

「大学病院の口腔外科に勤務していたので、抜歯は得意なのですが、自分が患者さんの立場になったら絶対に抜かれたくありません。開業したときから削ったり抜いたりしないで、天然のままが一番だと思っていましたので、医院の増築を機会に予防歯科への転換を図りました。ユニット3台の増築はすごい投資ですので迷いましたが、決断してよかったと思います。患者さんに喜ばれ、スタッフが元気になりました。歯科衛生士本来の仕事で患者さんとかかわることができますから、主体性が出てきて、勉強もするようになり、講習会にも自主的に参加しています。

昨年、豊山洋輔先生の聖母歯科医院（神奈川県川崎市）に、尾方主任と安部リーダーを連れて見学に行きました。同じPMTCでも全然違うことに驚かされました。ソフトタッチで、触られている感じがしないのに、汚れも歯石もきちっと取れている。自分たちの技術に満足していたのが、もっと上のレベルがあるとショックを受け、よりいっそう勉強するようになりました

▶▶▶ 患者担当制ですか。

「メンテナンスでは、そうしています。ポケットが深かったり補綴物が多かったり、インプラントが入っている難しい患者さんはベテランに担当させます。アPOINTは、大人は45分、たけのこ



▲診療中の辻野院長。「できるだけ歯を抜かない、できるだけ歯を削らない」がモットー

組（子ども）は30分です」

▶▶▶「たけのご組」とは何ですか。

「子どもの歯はやわらかく、むし歯になりやすいので、やわらかいたけのこを立派な竹に育てましょうと、治療が終了したお子さんに入会をお勧めしています。3～4カ月に1回の定期健診で、染め出し、TBI、フッ素塗布を行っています。モチベーションが難しかったので、『たけのご組』と名づけました。12歳までのお子さんなら誰でも入会できます。希望者には写真を撮って、待合室に張り出しています。12歳でカリエスフリーが目標です」

▶▶▶滅菌にも力を入れているそうですね。

「患者さんにも、術者にも安心してもらうために、院内感染をなくしたいと思って、お口の中に入るものは全部滅菌するようにしました。費用はかかりましたが、タービンを何十本も購入し、1本ずつパックに入れてあります。オートクレーブにかけられない物に対しては、ガス滅菌器を導入しました。治療にスタッフが自信をもつようになったので、よかったと思っています」

コミュニケーションを上手にとって 信頼される歯科衛生士に

▶▶▶スタッフ教育はどのようになっていますか。

「私と、先輩から後輩にという形にしています。新人の歯科衛生士が入ってくると、院内業務などの細かいことは主任とリーダーが教えています。スタッフが多いと、教育は楽ですね。

講習会やセミナーへも、積極的に参加していて、



▲歯科医師、歯科衛生士、スマイルコーディネーターが協力し、チーム診療が実現。医院の雰囲気も明るい

技術面だけでなく接遇やコミュニケーションも勉強しています。参加したら、診療時間内に行っている月2回の院内勉強会で発表してもらっています。そのほか、私が読んだ文献の紹介、新しい材料、薬の紹介などをしています」

▶▶▶歯科衛生士へのエールをお願いします。

「患者さんにとって信頼できる歯科衛生士になってほしいと思います。技術的なことはもちろんですが、コミュニケーションを上手にすることが、患者さんに信頼される歯科衛生士への近道だと思います」

▶▶▶医院の将来展望はどのように描いていますか。

「NPO 法人歯科診療所評価機構の認定を取ろうと、マニュアルを少しずつ整備しているところで。誰の目から見ても行動基準、判断基準がわかり、院長がいなくても診療所が回っていく会社のような形態にしたいと思います。また、地域の方々のホームドクターになれるように、患者さんに専門的なことを少しずつ情報発信しています。お口の中のどんなことでも相談できてアドバイスがもらえる、健康情報の発信基地になりたいと思っています。最終的には治療ではなくて、相談所のような形になるのが理想ですね」

DHstyle 編集部では、当コーナーにふさわしい予防型の歯科医院を募集しております。自薦他薦は問いませんので、E-mail (dhstyle@dental-diamond.co.jp) でご紹介ください。